

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会 長 藤井 信
 新潟県山岳協会
 長岡市学校町3-11-7
 TEL 0258-32-4835

事務局 諏訪恵一
 長岡市高畑町610-10
 TEL 0258-35-4373

編 集 新山協ニュース編集
 委員会代表 横山征平
 岩船郡関川村下関1100-1
 T/F 0254-64-0469

冬山講習会報告

指導技術委員

嶋 原 哲 也

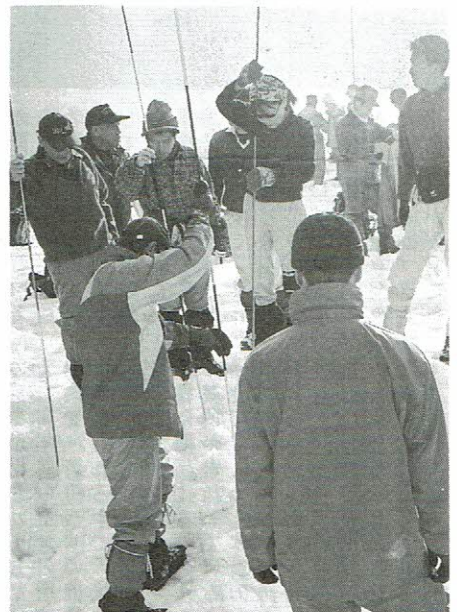
平成15年2月22日(土)・23日(日)の間、新発田市滝谷の農村婦人の家と俣倉山を会場に、指導員検定会(氷雪技術、筆記試験)及び冬山講習会が開催された。

1日目は、午前10時より婦人の家で受検定者8名を迎え、検定員、関係者で検定会の開会式を行い、すぐに集落下の加治川沿い、発電所付近の斜面を利用し氷雪技術の実技検定を行った。受検者はワカンを装着し、歩行技術を兼ねて斜面を踏み固め、滑落停止、同時登攀の実技を行った。柔らかい雪で勝手が違う様ではあったが、皆一生懸命だった。実技検定後、一旦婦人の家に戻り、筆記試験を行った。筆記試験が終わると先の実技検定の際、同時登攀、隔時登攀で動作やロープワークについて検定員から指摘を受けている人達は自ら再度検定会場に行き復習するなどし、熱意を感じさせられた。

2日目は、午前10時より井村実行委員の司会で17時より講習会開会式が行われた。藤井協会長の挨拶に続き座学として、阿部指導技術委員長より、1月に八海山で行われた日山協遭難対策委員会主催の山岳レスキュー講習会(積雪期)に基づいた講義が行われた。講義内容は搬送法(ザックを3ツ連結させた担架、ツェルトなどシートを使った搬送など)、雪上アンカーの取り方(枝の束や、土嚢袋を用いた方法)、ビーコンやゾンデ棒などの雪山崩れ捜索用具の使用方法(機種による特徴や操作方法の違い)などであった。このあとやがて迎えた懇親会は、豚汁を囲み持ち込みの地酒で盛り上がりた。

2日目は、朝5時起床で、各自朝食をとり、6時30分組倉山の登山口へ向かった。7時行動を開始し、道路より少し登った台地に集合した。ここで受検定者を含め約50名の参加者は、早速数班に分かれ実地研修を開始した。研修内容は、昨晩の座学を踏まえ、ビーコンによる捜索訓練、ゾンデ棒による探索実習、雪中埋没体験、安全確認をしながらゾンデ棒による人体感触の確認、埋没者を掘り起こし、ツェルトに収容する訓練が行われた。これは埋没者を雪の中から外気の風雪にさらすと更なる低体温症を招く恐れがあるため、雪中に少し埋った状態のままツェルトに収容してから雪を取り除くというものであった。土嚢袋を使ったアンカーを作り、実際に加重をかけて実験したが、驚くほどしっかりとったものだった。

9時頃から俣倉山の登山を開始。例年はスキーでの登山が多い冬山講習の俣倉山ではあるが、今年は小雪の影響もあるのか全員がワカスカスノーシューでの登行であった。天気は非常に良く、行動は順調で12時前に殆ど全員が頂上に立つことが出来た。快晴のお陰で焼峰、三王子、蒜場の山々を始め遠くの間々も一望することが出来、恵まれた俣倉山登山となった。頂上で一応解散ということで、それぞれ昼食をとり適宜下山。15時頃には全員が下山し、事故もなく無事全日程を終了した。



ゾンデ棒による捜索法実習
 (ゾンデ=ドイツ語で捜索測深器具)

お知らせ

● 新山協評議員会開催案内
 ・ とき 4月20日(土) 12
 ・ ところ 長岡市
 以下詳細については別
 通知でご案内します。

平成14年度 山岳レスキュー講習会(積雪期)

県山協遭難対策副委員長

楡井利幸

平成15年1月25日(土)～26日(日)、六日町大字岡地内に於いて日本山岳協会の主催する積雪期山岳レスキュー講習会に参加した。

遭難事故現場で必要な登山者の救助技術の習得・研鑽を目的としたこの講習会では西内博遭対委員長をはじめ、16名の指導者が揃った。一方受講者の方は40名定員のところ29名の参加で少し勿体無い気がした。県内からは6団体12名の参加であった。

一日目はオリエンテーションのあと座学。ピーコンの機種とその特長などを学び、その後、付近の雪原で弱層テスト、雪上アンカーのとり方、ピーコンの使い方等講習を受けた後、宿舎(閑海醸造・岡寮)富岡ホワイト美術館・(低体温症)の講義を受けた。

二日目は昨日の講習会場より少し先の斜面を登り「雪崩に巻き込まれた負傷者を救助する」という想定での実技講習会を実施した。参加者は皆真剣に耳を傾け、メモや写真

をとり、今回の講習を自分達のものにしようと努力していました。

〔感想〕

一、雪山の登山に於いては雪崩等に巻き込まれない事が第一であり、その為に弱層テスト(ハンドテスト)を時間を見つけて何度も試し、自分のものにする事。

二、冬の樹木は乾燥していて、横からの力には弱いいため、細い木を支点とするには工夫が必要だという事。

三、雪中のアンカーはスノーバー等の市販品もよいが、杖を数本集めて長めのスリングで束ねたものや、土嚢袋を利用したアンカーが有効であることなど、新しい発見が多くあり、実践で役立つ事の多い講習となった。

また、25日夜の懇親会も楽しくよい思い出となった。この講習会は参加すれば、それなりの事が得られます。ぜひ参加者を送り出していただきたい。来年は滋賀県で開催される。

新潟県山岳遭難防止対策協議会出席報告

遭難対策委員長 谷中隆明

平成15年1月20日に、県庁で平成14年度における標記の協議会の総会が開催され、当協会から楡井協会長と谷中が出席しました。

この会議は、県警、気象台、航空自衛隊、県内各地の山岳遭難対策協議会、県庁内の関係各課等が出席して毎年一回開催されるもので、県山岳協会長が議長を勤めております。会議では、平成14年度の業務報告及び平成15年度の事業

計画が報告された他、「新潟県山岳協会加盟団体における安全・遭難対策の事態及びその問題点と課題」と題し、昨年3月に遭難対策委員会がまとめた報告書をもとに、谷中が発表し、今後、県山協としてこの課題に取り組んでいくこと、警察、消防、各地区山岳遭難対策協議会等との連携の在り方についても改めて検討していく必要があるとの意見を述べた。

また、県警本部から、平成14年度における県内での山岳遭難発生状況について報告があり、①夏の猛暑と秋の早い時期の降雪による登山者の減少により、遭難者数は昨年度に比べ30ポイント近く減少している、②相変わらず県外者(主に関東圏)の遭難が多い、③県内者の遭難は山菜採りが多く、県外者の遭難は登山・溪流釣り等が多い、④依然として、中高年層の遭難が圧倒的に多い、⑤遭難救助のためのヘリコプター出動要請が安易に行われる傾向があるこ



また、県警本部から、平成14年度における県内での山岳遭難発生状況について報告があり、①夏の猛暑と秋の早い時期の降雪による登山者の減少により、遭難者数は昨年度に比べ30ポイント近く減少している、②相変わらず県外者(主に関東圏)の遭難が多い、③県内者の遭難は山菜採りが多く、県外者の遭難は登山・溪流釣り等が多い、④依然として、中高年層の遭難が圧倒的に多い、⑤遭難救助のためのヘリコプター出動要請が安易に行われる傾向があるこ

との指摘がなされました。また、「民間山岳救助隊の活動状況と補償」について協議が行われ、各地区遭難対策協議会における登山者への情報提供、登山道の整備、パトロールの実施等の取り組みについて報告があったほか、今後の新たな取り組みとして、近年特に増加している県外登山者に情報提供するためのインターネットによる窓口設置等の検討や、ツアー登山の現状把握、ツアー会社との連携の必要性も指摘されました。一方、県内登山者も他県で遭難することが多いことから、県内登山者に対する講習会、研修会の一層の充実も必要との意見が出されました。中高年層の遭難の増加傾向と県警・消防ヘリの機動力充実が図られる中で民間救助組織や県内各山岳会の弱体化などの実情を考えると、山岳遭難に関係するほとんど全て

クライミング講習会を開催

二月十六日、新潟市Roc k Youを会場にクライミングの普及を目的とした初心者向け体験講習会が開催された。昨年から国体山岳競技少年の部でも正式種目になり、今後競技の中心になると思われるクライミングだが、始めるきっかけがないのが現状ではないだろうか。当日は三十余名の参加があり、皆十分な手ごた

えを得たようだ。なお、クライミング委員会・競技部では今後も上級者対象の講習会も含め継続的に講習会を計画するということである。(諏訪)

クライミング講習会に参加して

以前から一度やってみたいと思っていたので、「やる気

だけは、満々・・・。

稲田氏の華麗なるお手本を見て「なるほど」と、いざとり組むと、四点支持のまま先へ進めず、しがみついたまま力尽きてしまい、マットに「バタッ!」と落ちてしまう。「こりゃー難しい!!」初めての感想はこの一言です。何度かチャレンジするうちに、ほんの少しですが、足を置く位置、体の向き、体重移動と手の運びのタイミングなど掴めた様な気がしました。終了後も出来なかったボー

ドを再チャレンジしようとする気はあったのですが、しがみつく事も出来ない位手が、腕が、へたばっていました。脚力も必要だけど、まず腕力を鍛えなければ・・・と思いました。

いつぞやかは、コーチ陣の様に華麗にクライム出来る様になりたい・・・そんな決意を新たにしたり一日でした。稲田氏をはじめ、講師の方々、ありがとうございました。(むささび会 川崎 明子)

「国体カンパ」

お礼

お蔭様で、充実した現地合宿もでき、よさこい高知国体ですばらしい成績を上げる事ができました。感謝申し上げます。

●カンパをいただいた皆様

- 朝路の会、石田國夫、井出秀雄、遠藤家之進正和、柿崎山岳会、加藤記代子、亀田山岳会、加茂山岳会、北村猛、九期山の会、むささびの会、草間雄一、桑原梯治、後藤邦子、笹神村うすゆき山の会、さがに山岳会、清水迪男、白根山岳会、杉原八百樹、杉本敏、諏訪恵一、高田ハイキングクラブ、田辺信行、土田幸雄、津南山岳会、十日町山路野会、とーろっこ山の会、内藤修、中村光信、七沢恭四郎、南魚山の会、新潟山岳会、新潟峯友会、橋本正巳、藤井信、室賀輝男、望月力、弥彦山岳会、山田智子、悠峰山の会、ゆきみやまの会、渡辺正之

(敬称略、五十音順)

(事務局 諏訪)



変成附加帯の岩盤を露頭する駒ヶ岳西面

山と岩石

さわがに山岳会 小野 健

⑱ 県央東部に鎮座する霊峰群

八海山・中ノ岳・駒ヶ岳は、越後三山とか魚沼三山とも呼ばれ、国定公園に指定され多くの登山者に親しまれてきました。三山は信仰の対象としても有名ですが、八海山はコンクリートのような礫岩の八峰より成り、修験者の道場でもあった。全国には地域名でよぶ駒ヶ岳も多いのですが、越後駒は県下でも古い地層に属し、標高では今年の上山なのです。

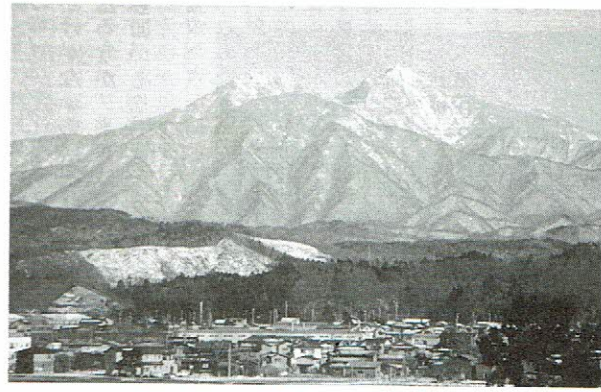
八海山西部は、第三紀中新世の堆積岩で、東部の中古生層附加帯弱変成碎屑岩に移り、中ノ岳周辺では深成基盤岩が変成作用を受けた変はんれい岩となります。

駒ヶ山は、八海山西部の延長地層で、枝折峠や駒ノ湯からの登山道沿えには、層理・節理の発達した珪質岩がみられます。登山道沿えに、花崗岩と変成碎屑岩との境界部が白く断層破碎帯になっているのが確認できます。

山頂部は、尾根筋に磨かれたような岸壁が露出し、日本アルプスとは異った垂高山帯植生に気付かれるでしょう。

小田幸男さん

再び南極越冬隊員に挑戦



鷲ヶ巣山1,093.3m岩船朝日村

岩広山岳会小田幸男さん（岩船地域広域消防勤務）は第四十四次日本南極地域観測越冬隊員（二〇〇二年～二〇〇四年）として現在南極昭和基地で活躍している。

小田さんは第三十九次（一九九七年から一九九九年）に次ぐ二度目の挑戦で、隊長お氣に入りの請われての挑戦である。

電話も有りますが料金や呼び出し接続の関係でFAXが便利。
 ・FAX番号 00118731
 343198541
 一般のFAX機器から送信できる。
 ・料金 六秒毎四十四円
 ・連絡可能期間
 平成十六年一月末まで

「山岳手帳」を作成

映彩山岳会

谷中 隆明

映彩山岳会では、会の長い歴史の中で培われてきた山での生活技術を元に、会としての安全対策・遭難対策の標準を取りまとめた小冊子（九二頁）を作成し、会員に配布しました。内容は、無雪期、積雪期における安全確保のための基本的な技術、遭難救助技術等となっています。

この手帳は、二年前に作成した「映彩手帳」を元に一年間をかけた会員がお互いに議論し全面的に改訂したオリジナルなものです。

当会では、これを常に山行に携行するようにしている外月二回の例会にも持参し、研修に用い、内容の徹底を図っています。

会員以外の方でも活用を希望する方がおられれば、余裕のある範囲で実費頒布（一冊三百円、送料別）いたします。なお、新潟駅前の石井スポーツ店にも置いてあります。

●問い合わせ先

丸山 祐一郎
 〒九九九一〇四二二
 西蒲原郡西川町曾根三一
 〇二五六八八二一三

編集こうき

▲ 漸く春の陽気になり、お天気を狙って日帰り山行には良い季節となりました。

この時期夏道だと苦勞する鞍部も雪渓で埋まっており、たやすく通り抜けができたり、木立の見通しが良かったり無雪期にない景色を堪能することができるときです。

▲ 冬山でも出かけない限り、ピッケルでの制動やザイル確保の練習の機会が少ないものですが、春先は山も雪が豊富で、適当な斜面で練習をする良い機会です。調子に乗って下り過ぎると帰りが大変です。

▲ 新山協ニュース（会報）の編集を担当し、早や二カ年が過ぎました。この間原稿や写真をご提供ご協力下さった皆さんに厚くお礼申し上げます。気安く引き受けたはよいが、自分の技量の無さに泣き泣きの二年間でした。後半は毎月発行が隔月になってしまいが、ご迷惑をおかけしましたが、後任の方々にはこの遅れを取り戻す勢いで紙面の充実、新山協の連携につとめていただきたくご期待します。ありがとうございました。

(Sehe-yokoyama記)

登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025) 243-6330(代)

登山・ハイキング・クライミング テレマーク&山スキー



パーマーク
 長岡市西宮内2-97 (長岡市役所裏通り)
 TEL0258 (37)1200-FAX0258 (33)1164
 ●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>